

件名	第3回常磐公園改修事業基本計画検討懇談会		
日時	平成23年9月30日 10:00～12:00	場所	旭川市保健所棟1階 講座室
出席者	<p>【出席委員】 石崎委員，大野委員，寺島委員，成田委員，松倉委員， 松野委員，丸山委員，宮崎委員，八重樫委員</p> <p>【オブザーバー】 旭川開発建設部 6名</p> <p>【事務局】：旭川市土木部公園みどり課 吉田課長、太田主幹、吉田係長 星主査、濱地主任、高田 (株)富士建設コンサル 2名</p>		
資料	<p>(資料) 第3回常磐公園改修事業基本計画検討懇談会 (別紙資料1～3) 常磐公園全体平面図・かわまちづくり整備計画図(案)・立木調査図 (別紙資料) 常磐築堤の整備について・石狩川常磐公園上下流空中写真</p>		
<p>《概要》 1.開会 2.事務局挨拶 3.委員長挨拶</p> <p>【議事】 委員長が議事進行。事務局より「前回懇談会の確認」、「常磐公園改修事業の個別計画の検討」および「常磐公園改修事業の整備内容の確定」の概要説明。</p> <p>(委員) ・魅力の創出とあり、2回目の懇談会でも見直しをしていくことによって、私たちが公園からもらっていた魅力をまた感じることができるよう方向性が見える良い話し合いができたと思う。 ・新たな魅力とあるが、101年という歴史を刻んできた環境が常磐公園そのものだと思う。見直しをしつつ、時の流れを積み重ねて大切にしていかなければならない。それが魅力で、その役割をしてきたのは樹木だと思う。正確な見直しと時の流れを止めない環境を次の世代に残してあげたいと思う。新たな魅力も大事だが、今までの魅力を忘れないで検討の中に入れてほしい。</p> <p>(委員長) ・背景としては私たちの気持ちは、ここにある歴史も含めたものに対して敬意をはらうことが前提の姿勢だと思う。</p> <p>(委員) ・今ある樹木の新しい配置は考えているのか。池がかなり汚い。シダレヤナギが池の周りに多いが、池にヤナギは風情のある樹木と思うが汚れの原因がヤナギの落葉にあるとすれば本数を減らすことも一考では。</p>			

風情があるので池の周りに集めるのは理解できるが適度な配置を考える事が必要。

(委員長)

- ・適正配置が今までされていなかったという意見は随分出ている。それを改めて見直して全体を見ていく。その背景は公園だけでなく、7条緑道や街路樹、旭川の緑全体での位置づけになる。風情があるかは個人的な意見になるが、恐ろしいという意見もある。

(委員)

- ・議論に入る前の確認だが、河川用地が常磐築堤に関して言うと、法尻からどれくらいの範囲になるのか明らかにしてほしい。
- ・現行の堤防について、河川の治水上の立場からしてどういう認識を持っているのか明らかにしてほしい。
- ・第2回の意見のまとめで「量的な緑から質的な緑への転換を検討する」とあるが、これまでの議論からいうと緑の質をどう高めるかという意見であり、量から質に転換するという議論ではなかった。逆に言うと、緑の量を減らして価値のある木だけを残せばいいというふうにとらえられるので確認が必要である。
- ・動線の主体は「人」だったと思う。人が公園に出入りする場合にどういう動線を考えるかだったと思うが、このニュアンスでいうと車を中心にした動線になっているように感じるので、中心軸が違うのではないかという感じがした。

(委員長)

- ・「量から質の転換」を変更する必要があるということと、動線も車のことだけではないということである。
- ・最初の2点の質問について回答をいただきたい。

(旭川開発建設部)

- ・川側に堤防を拡幅できないかということで、堤防を治水的な立場からみるとですが、別紙の資料で説明します。  
まず、2枚目は旭橋を中心とした航空写真であり、川の状況は金星橋の所の赤線は堤防と堤防の間を示していて320メートルの幅がある。旭西橋と新橋の間の堤防と堤防の間は340メートルある。旭橋と新橋の間は230メートルになる。堤防と堤防の間隔が狭まっていることで水の通りが悪くなる。また、石狩川だけの水ではなく、旭橋のところで牛朱別川と合流するので水の量が増えてくる。これを考えると、堤防と堤防の間隔が必要だが、旭橋という旭川市のシンボルがあるので、この橋を架け替えるというのは困難である。そこで、堤防を強化して高い水が来たときに溢れないような決壊しないものを造っていかねばならないと考えている。
- ・堤防の河川用地の関係で、左下にある断面を見ると河川の用地が堤防の中で区切られていて本来であればもっと平地の方に河川の用地がいていなければならないが、河川敷地の用地が不足しているという状況である。  
資料3で、オレンジ色の線を見ると堤防の中に河川敷地と民有地の境界が入っている状況で用地的には堤防用地が足りないということになる。
- ・川側に堤防を拡幅できないかという点だが、川側に堤防を寄せるということは堤防と堤防の間隔をもっと狭めることになり、危険度を増すことになる。

- ・堤防の治水側からの見地は、1 ページ目の真ん中の写真と 2 枚の写真になる。堤防は断面図の左側で示しているように、オレンジ色の線の断面が必要と考えている。それを表したのが真ん中の写真のオレンジ色でイメージ的にこれくらいがかかってくると示している。
- ・堤防に木が生えていてこの木が倒れてしまうと、今の状況なら堤防の断面が足りない。根から転倒していくとして、もしその時の水位が高い状態だと堤防に水が浸透している状況なので、浸透水を堤防の内側に溢れさせてしまい堤防を壊してしまうことになる。もし、堤防が決壊すると上の真ん中の図になるが、旭川市の旭橋から下流側、忠別川との合流点 JR 線も含めて色で示したような浸水区域になってしまう。最大で 5 メートルくらい浸水してくるので安全対策としては堤防を強化していきたい。

(委員長)

- ・7~8 年前の洪水ハザードマップの時代の話で、その時すでにこの堤防の脆弱さは指摘されていた。そういう前提もあったということがご指摘の中にあったと思う。これを全部大きな堤防にするというのも無茶苦茶な話なので、そういう意味では、技術も進歩しているので、色々な方法をとって強化するだろう。

(委員)

- ・現行の法尻のところは河川用地になっているということか。それとも、もう一つの資料の、拡張した場合の緑で塗ってある部分も含めて、計画で予定されている法尻の所までが河川用地なのか。

(旭川開発建設部)

- ・現状は資料 3 のオレンジ色。最終的には開発作成資料の緑で塗った断面から 5 メートル程先が用地になる見込み。

(委員)

- ・2 枚目の資料で、今年の 9 月 2 日の状況が書かれているが「200 ミリを越える大雨になった」ということで、確かに旭橋の所を見ると、上側は幅が狭いので水位は上がっているが常磐公園と接するところは、幅が広いので水位が下がっている。これで見ると、堤防との間の余裕高はかなりあるのではないかと考えられる。堤防を破堤しそうになるほど大きな状況があったようには認識していないが、そこはどのような認識なのか。堤防が弱いという場合にはどれぐらいの雨量を想定してそのようなことを考えているのか。
- ・堤防は部分的ではなく、上流から下流まで一貫したつくりになっていないとある部分だけ強化しても効果がない。その点の関連でいうと、常磐公園のこの部分はどのような位置づけになっているのか。特に弱いという状況になっているのか。そこを聞かせてほしい。

(旭川開発建設部)

- ・前回の雨だと、まだ我々が考えている計画の量までは至っていない。常磐公園の堤防の高さに対して、もし計画する雨が来た場合は溢れることも考えられる。

(委員)

- ・それは何ミリくらいなのか。

(旭川開発建設部)

- ・この場で細かな計画の話をするのか。

(委員長)

- ・今日はサインの話など色々な話をしたいが、ここが脆弱だということはその通りだとは思うが、それが全て前提になると全ての木を切り倒すことが前提になってきてしまう。

(委員)

- ・一つは築堤の部分を緩傾斜に全面的にするのかどうか、そこの樹木を手入れするかどうかというのは後の議論になってくると思うので、その場合に堤防がどういう位置づけになっているのかははっきりしないと議論も進まないと思うので聞いている。  
350 ミリというのは想定している雨なのか、それはもっと言うと石狩川の流域委員会で計画している水位なのかどうかということも知りたい。

(委員長)

- ・あまり細かいところまで入っていくと、全体の議論の中で専門的な話になっていくので、出来れば後ほど説明してほしい。せっかく今予算がつきそうなので、やれるところからやっていこうという姿勢の中からここがどういう位置づけになるのかというところの流れできている。
- ・川に近いということも魅力的で、ここをさらに良くしようという姿勢から考えての懇談会なので、細かい所や知りたいことは専門的な事もどんどんお話しいただければと思うし、情報公開してもらいたい。

(委員)

- ・今回の資料を見て改めて感じたことは、15ha という常磐公園の中に様々なものが詰め込まれているという印象が強い。基本的には、自然や緑と言いながら、実際には文化芸術分野が高い密度で入ってきている。その他に遊びのゾーンや色んなゾーンがある。全体の20%を超える大きな池の問題もある。色んな立場の市民の公園に対する願望をどのくらい叶えられるのか。みんなそれぞれの言い方をするとまとまりがつかないのではないが、詰め込みすぎているのではないかということが気になる。
- ・101 年前に常磐公園ができた時の環境とは著しく変わっている。世の中の変化と併せて公園のあり方も当然変わってくるべきだと思う。それが今、ここで求められているということからすると、時代に合った新しい公園の魅力というものを造り出す事が必要。景観が継承されたとうたわれているので先ほど懸念されたような部分は継承されていくのであろうと思う。
- ・緑の量的確保や質の転換という話で、質への転換という意味ではなくて、緑の質への向上を図ることが本来あるべき形だと思う。
- ・樹木は1年間に最低10cm、場合によっては30cm、50cmという形で大きくなっていく。ボリュームがどんどん増えていく。今まで常磐公園の樹木に対して的確な管理がされていなかった、あるいは無計画に植えられていたということが前回の話で出たが、そういう樹木に対する取り扱いを今ここで急にどうするかということになると、年寄りの木ばかりになっていて、今更にちもさっちもいなくなる。切るにも切られないというような現状だが、いずれにしても、全体的な大雑把な見方をすると、樹木の本数は半分くらいになっても将来的には良いだろう。質的に良い木が植えられていればそれでこの緑は確保されるだろうということと言える。

(委員)

・樹木をどのように残していくのかということがよく検討され、私たちの目にもはっきりわかる形で示され、例えば半分に減ったとしても納得できるような環境作り、それが将来に繋がるものならば後継木を植えて老朽木を整理しながら、生かせるものを生かし今あるものを大切にするという、残し方がされるのであれば理解できる。

ただ、イメージ図を見たときに心配したのは堤防の樹木の環境である。広範囲の空間の樹木がなくなってしまうというのは常磐公園の環境そのものを著しく変えていくように思い危惧している。全体を見て堤防部にも木がほどよく残るといふのならわかるが、あれだけ無くなるということは検証がもっと必要だと思う。時を経てきた公園の環境は来るお客様にも魅力として届くはずなのであの図の空間はやはり納得がいかない。

(委員長)

- ・「ほどよく」という表現が本当に難しいところで、どれくらいをほどよくと考えるか。どれくらいとは決められない事であると思うが、ご意見はきちんと記録に残していきたい。
- ・色々な園路があって、その中でも特に大事なところというのがある。4,5ページの内容について感想や付け加えることがあるか。

(委員)

- ・「野外彫刻回廊を整備」とある。予算の関係もあるだろうしあまり多くを求めても彫刻回廊が活性化までに繋がるのかどうかと思う。
- ・買物公園が出来たのは車社会ではなく歩く時代になった。今は、当初の計画が終わった段階で次の事を考えないといけない。7条緑道を歩くと、7条以降ロータリーに向かって閑散としている。7条緑道が出来たからそうなったのか、7条緑道が出来なくてもそうなったのか検証する必要がある。次の世代の子供達に何を残すかとあるが、短期間で検証するのが大切である。
- ・目的が終わったものは速やかに撤去すべきである。学習館を残した場合、撤去した場合という案が載っている。2案に撤去した場合が載っているが、ここで検討したものは優先順位があると思うので、撤去した場合を1案としてお願いしたい。
- ・7条通りが出来たことによって街が変わったのかどうか。それは検証したのか。

(委員長)

- ・商業系の世界や中心市街地に注目した調査もののなかでは、7条緑道というものが出来た経過も含めておそらく調査されていると思う。ここで今、議論しなければいけないことは公園の中に色々な人が来てほしい時に公園の中だけの話ではなくて、7条というのが一つの流れを持っているのであれば、その入口の辺りを整備した方が良いのではないかという指摘である。

(委員)

- ・7条通りは真ん中が通路で周りが車道だが、あの通路が頻繁に使われるようになって、例えば飲み物を飲みたいと言っても、店はその通路には車道があってできないということ考えると活性化になるのかどうか。あまり色々なことに手を伸ばしてもいけないのではないかという話をしたかった。

(委員長)

- ・この公園に色々と詰め込みすぎているのではないかと、改めていないものはいないという判断があってもいいのではというご指摘もあったが、広場の話をすると広場の排水が悪いから直すだとか、食べマルシェなど大きな催事もイメージした整備ということであるが、ここの魅力アップに繋がっていく方向性を示したことになるでしょうか。

(委員)

- ・動線だが、美術館と公会堂を結ぶ主軸とあるが、公会堂は表側に玄関がある。図書館は裏側にもある。美術館は美術館の駐車場があって、17時で閉めてしまう。美術館の駐車場というのは常磐公園の駐車場なのか美術館の駐車場なのかよくわからないので、常磐公園に来た人が17時で駐車場を閉められてしまって出られなくなるので、結局ここは美術館の駐車場だろうと私は思っている。常磐公園の一角にある駐車場なのに。
- ・美術館から公会堂、図書館のこの間に池があるが汚くて木がうっそうとして、美術館と図書館は見えない。ここに彫刻などを置くという話だが、それより木を減らし見通しを良くして美術館が見えるような空間を設けた方がいいのではないかと。
- ・元々常磐公園の入口は今の多目的広場の位置にあり、その他に公園の入口は一切無い。以前から、川のおもしろ館と公会堂の間に常磐公園の仮設でも良いので入口を作ってほしいと話をしてきた。今回の資料を見ると、川のおもしろ館が無くなったらまた何かを造ってどうこうとある。前回の懇談会での話したことは今回とは別なのか。
- ・堤防の話で、市立病院に向かう緑橋のところで、私が小さいときに、堤防ギリギリまで水が上がったことがある。旭橋の所ももう少しで溢れるという時代があった。今から40、50年程前の話だが、その後大雪ダムができて水は管理されていると思うが、9月2日の水の量も、まだ序の口で本格的に雨が降ったら石狩川もいっぱいになると思う。堤防の木がどうという問題より、まず堤防を直してもらわないことにはどうにもならない。
- ・例えば、堤防でも常磐公園だから木が生えている。しかし、金星橋の所の堤防には木は生えていない。公園に面して堤防があり、そこに木が生えているから木を切つてはいけないという話ではなく、堤防を強化するのであれば木は無い方が良く、そこを考えてもらわないと、公園の一部で、どうしても木は残さなければいけないということではなく、開発局が整備する堤防で、強化して水を溢れさせないということで話している。どこの堤防にもあんなに大きな木が生えているところは無いので、堤防を強化するなら木を切つてもいいと思う。

(委員)

- ・今あるものを見直し、市民やお客さんに喜んでもらえる環境作りをする。それをしないで色々なものを増やしていくと、何のための公園なのか。文化芸術ゾーンと言っても市民やお客さんの憩いの場として心が休まる場が公園である。それが第一前提だと思う。
- ・常磐公園そのものの環境自体が旭川のシンボルで常磐公園といえばあの風景が浮かぶ。その環境を見直しながら緑が繋がっていく環境を残したいと思う。それに係わって、堤防が脆弱だから整備するのであれば、そこだけにとどまらずに全体を見直した堤防の脆弱さを工事してもらいたい。それが旭川の街を守る事ではないかと。

(委員)

- ・常磐公園の改修を考える時に、堤防に係わる分と本来の常磐公園の所をどうするかという話は別だと思うが一緒に議論するので話が行き違っていると思う。  
堤防の話は防災の話なので、市民の防災という安心安全を守るという立場からすると、木がどうのこうのという話ではない。なので、それはそれで議論して本来の公園の中のあり方をどうするのかもそれはそれで議論するやり方がいいと思う。
- ・全体の公園の15haの中で、池の占める面積が非常に大きい。今まではただ水が汚いという議論をしたが、どうするかという話が出ていない。

(委員)

- ・公園の池に石狩川や牛朱別川から水は引けないのか。昔は忠別川から公園の池に水を引いていた。今は浄化して公園の水を使っていたと思うが。

(事務局)

- ・水利権という設定があって、勝手に水を引くことはできない。
- ・今は忠別川から流雪溝に流す水をそのまま池に入れている。

(委員)

- ・逆に池をやめて流れる川を造った方が汚い池があるよりは良いのではないかと思う。

(委員長)

- ・多目的広場に関しては、前回の中で緑化をはかって子供が裸足になれるような広場、もっと色々な人に来てもらって色々なイベントをしてほしいという意見でまとまるのかと思うが、ご意見ありますか。

(委員)

- ・広場に関して、昔はあの辺りで野球の大会など色々スポーツの催しをしていた。しかし、河川敷公園が出来てそちらでするようになって、あまり公園の中で行うという昔の利用の仕方は無くなってきているのではないかと思う。それこそ、時代の変化を踏まえながらどういう利用にしていっていいか変えていく一つの視点だと思う。
- ・常磐公園全体を一つの市全体の中でみる必要があり、北彩都や7条緑道と公園を結ぶ一つの緑のラインは非常に大事だと思う。そう考えると7条緑道の終わり公園が接続するところが非常に入りにくい構造になっているのでこの辺りの検討が必要だと思う。
- ・川のおもしろ館の跡地を安易に駐車場に考えないで、もう少し公園の中に人が訪れやすいつくりという視点で考える必要があるのではないか。
- ・広場に関しては現在どのような利用のされ方をしているのか。

(事務局)

- ・利用の申し込みから大まかに言うと、春先の招魂祭の関係など。今年は7月頃のイベントで犬の展示会という北海道犬のイベントをやっていた。朝はラジオ体操をやっている。

(委員長)

- ・河川敷にも二つの広場があるので、あえて車も止めにくいここでわざわざやることはないとなるのだろう。そうすると、今の話も含めて普段はみんなが歩いてくれるような環境整備がいいのではないかということか。

(委員)

- ・当面、芝生で裸地化している広場の部分を覆い、将来の公園の緑の世代交代を視野に入れながら、後継樹を今から育てる場として活用する方法もある。

(委員長)

- ・あまり物を置かない方がいいという意見が多い。
- ・多目的広場でたくさんコンサートを誘致しようとか、利用減少しているから利用率をあげるということだけが整備の目的ではないということが意見として出た。

(委員)

- ・イベントがないと広場には行かないだろう。でもあることによって安心感がある。緑地がそこにあるという安心感。何かあったらいけるなという。

(委員)

- ・常磐公園は市内の中でどのような位置づけでどのように考えるのかが大きな前提になると思う。公園というのは樹木があり、水辺は一つの大事な要素になるので現在の池の汚さはよそ向けにならないと思うが、やはり水辺をきれいにする方策を考えてある物を利用するという考えの方が経済的にも環境的にもいいのではないか。
- ・緑の質を高めたいという意味は、残っている木も樹齢が経って老齢化していく。その時に後継樹をどのように育てていくかというのが一つの質を高めるということの課題になる。その時に公園の中の老齢化している木をどういう形で更新をしていくのか。その辺りを睨みながらこの広場も考えていく必要があるのではないかと思う。今、木が倒れたらどこに木を植えるというかたちではおさまらないのではないかと思う。そうすると、空き空間を利用しながら老齢化して寿命が尽きる木の対策も今の早い内から考えていかなければならない。そういった計画性が必要でないかと思う。

(委員長)

- ・樹木そのものや、計画性を見直す機会が必要であるというご指摘がたくさん出ている。
- ・広場に関してはあまりいじらないで、ゆっくり考えていこうという意見。

(委員)

- ・広場については、多目的広場になっていて広い広場であるが、食べマルシェの写真が付いているが、今年は雨が降り、水が溜まってひどかった。今、美術館の前は全部芝になってきれいになっているので、多目的広場を全部芝で緑化して、何かあればそこでイベントをできる形にする。普段利用していない時は皆さんに座ってもらったりして利用してもらえばいいのではないか。
- ・池は水さえきれいになってくれればいい。以前はボートの利用も多かったが、今はボートの量も少なくなってきている。きれいになればまた皆さんに来ていただいてボートにも乗ってもらえるのではないか。

(委員長)

- ・広場に関しては緑化の方向で進めてほしいという意見。その中には、もしかしたら樹木を植えていくという事もあるかもしれないが、この場では結論は出ずつもりはない。
- ・次に、サインや彫刻、モニュメントについての意見はありますか。



(副委員長)

- ・サインの件で、北彩都で市役所がサイン整備計画というものを作っているの、その利用を図るのが良いのではないかと。資料に出ているのがある程度ベースになっているのではないかと。そう言った方策で旭川市全体の中の考えで公園の中の整備をしていくのは賛成する。
- ・モニュメントの配置だが、私の経験ではそう簡単な物ではない。実際に考えるとそこに置かれていたという愛着もあるし、モニュメントという物も時代の中でいくつかの価値変化があり、環境の中にあるべき姿という形で作家は創っている。それを既存の物を配置していくという場合はそれなりに困難なこともあるし、市民の反対もあるということを知っている。緑の問題とは別次元だが重要な問題だと思う。
- ・周辺地域の整備において学習館を撤去する案が一案だという意見があったが情報からは判断つきかねる。公園があればいいと考えているのではなく、文化的な物がある場所も市民に提供したいという考えもあるということで、施設の位置というのは判断もあり、簡単には言えない。残すとなればお金もかかるだろうし、無くしてしまうと新しいものを造るのが大変である。この会で判断が付くかどうか分からない問題である。

(委員長)

- ・サインやモニュメントについて意見はありますか。

(委員)

- ・サインがないので、国道から色々な施設や常磐公園自体がどこにあるのかわからない。新橋の所も4条通りにも7条緑道の所にも案内はない。常磐公園の中はサインがたくさんあるのでこれで十分ではないか。それよりも、道路に付けた方が人もたくさん来し、リベラインも今度、80台止められるようになれば常磐公園の無料駐車場ということも道路からわかるようなサインを置けば人もどんどん来るのではないかと。

(委員長)

- ・周辺にサインが必要であるという意見。道路の整備で街灯だとかベンチだとかあるいは路面そのもの、園路でも例えば砂利にするのかアスファルトにするのか。細かいところもそれぞれが整合性を図っていかないと、サインだけがきれいになっても辺りは真っ暗ということになりかねないので、それについてはどうですか。

(委員)

- ・希望を言うと、出来れば札幌の芸術の森の公園みたくしてくれるとすごく良いなと思うが、どれくらいの予算があるかもわからないので、あくまで希望である。

(委員長)

- ・元々、彫刻は良い物を置いてある。彫刻の選定をして旭川市全体の中で色々な問題も絡んでいたが公園としてはなかなかいいなと、力強くてもおもしろいなというものもある。

(委員)

- ・駐車場が満車になっているときに、空いている他の駐車場に行けるようなものを造ってもらいたい。

(委員長)

- ・それを電光掲示板でやるのか人がやるのかそれは考える必要があるが、確かに情報を発

信する必要がある。

(委員)

- ・使用時間の制限があるなら1箇所だけ自由に使えるような所をつくるなど工夫した方が良いのではないかと思う。

(委員長)

- ・公会堂横には搬入路の道も造ることになり、出入口として整備する場所も出てくるし、学習館そのものがあっていいか無くていいかはこの段階では判断付きにくいところもある。考え方として、今あるものは丁寧に点検して検討するべきだという話の流れから言えば、撤去した場合と撤去しない場合を判断しろと言われても難しいと思うが、あったほうがいいのか、もういいよというくらいの話はしたい。

(委員)

- ・検討した段階で、次に使う目的があれば残した方が良いと思う。

(委員)

- ・あまり使わないのにお金がかかるなら壊した方が良いのではないか。

(委員長)

- ・私もそれを考えるのに1年から2年考えるべきと思っている。あまり拙速に壊す予算がある内に壊してしまえというのは違う。

(委員)

- ・残す場合、三浦綾子さんなどの作品を複製品でもいいので展示して、さらに見たいという人は見本林の方へ行ってくださいという案内も良いのではないか。

(委員長)

- ・堤防周辺の話で、治水の観点からいえば当然議論する場ではないが、私はすりあわせていく想いがそこに込められているなら丁寧な対応が求められる場所であると思うので議論したい。食べマルシェの時にオープンカフェを実験的にやったが、そういう試みも含めて意見ありますか。

(委員)

- ・昔の排水事情が悪く市の道路でもかなり洪水が起きていたので、もしも堤防が決壊したら大変なことになると思う。

(委員)

- ・私も食べマルシェに行き販賣を持ってくるといのはわかるが、イメージ図からいくとあまりに木が残らなさすぎる。こういう環境では、夏の日照りの強い時はどうなるのか。そういう環境でお客様へのおもてなしは十分なのか。安全というのわかるが、堤防の安全を確保するために拡幅しか手はないのか。公園の環境を守りつつ、堤防の脆弱さを解決する方法はあるのではないか。170本の木が伐採とあるが、ここについてはできればもう一度現地を見てみんなでどうしたら市民に良い環境を残すことが出来るのか。階段の所を緩やかにする手もあるだろうし、もう一度検証する必要があると思う。

(委員)

- ・堤防上の樹木は公園全体の樹木から見ると、自然の働きの上で非常に重要な役割を果たしていると思うので、あそこの木がほぼ無くなると、川は風の通り道なので風が公園の

中に入るし、乾燥などからも公園を守っている。景観としての優れた面も奪われるし、色んな生き物の結びつきということを考えると川と公園の緑というのはそういう意味での結びつきを深めなければならない。残念なことに花火大会の座席を含めてコンクリート化してしまったので、あの間は水辺と公園の緑が断絶されていて、我々人間から見ればただの断絶ということだが、昆虫や小動物からみると非常に大事な空間になっていると思う。そういうことを考えると、水辺に緑の樹木群を配置して生態的な結びつきをきちんとしておくというのは非常に大事ではないかと思う。

- ・堤防の中には手を入れなければいけない木もあるが、開拓以来の頃に近い時期からある良い木も残っている。先人がそういう木を残してくれたという大事な視点を持っておかないといけない。無くすのは簡単ですぐに無くなるが、それを再生するとなると、難しい点があるので考える必要があるのではないか。

(委員)

- ・堤防の木が防風や防寒という形で常磐公園の環境を守っているという話があったが、その考え方は個人的には必ずしも賛同できない。あそこの樹木のほとんどは冬になると葉が全部落ちる広葉樹である。それが、川辺でなく堤防の外側の公園側にあるので、冬になって落葉した樹木がどれだけ川沿いの冷気が常磐公園の方に入ってくるのを守るかという疑問に思う。無いと言っているのではないかと思う。それが必要ならば、松類だとかトウヒ類だとかでやらなければならないと思う。

(委員)

- ・河川敷の堤防の所にオープンカフェをつくるという話は、設置を計画しているということであって、ここに常設する訳ではないので日照りが強いとかは関係がない事だと思う。樹木の話が多いが、大事な木は北彩都にできる公園に移植したらいいのではないか。北彩都だって木がいるのだから、ここから持って行ったらいいのではないか。

(委員)

- ・北彩都の公園は造られた公園になるだろうと思う。でも、常磐公園は唯一歩いていける自然に恵まれた優しい公園だと思うので、旭川市の中にそういう公園があるということは財産であると思う。そういう意味で大切にしていきたい。

(委員長)

- ・以前出た話で、植えた木ではない自然に生えた木のことを言っていたのだが、そういう意味では自然に生えた計画性が無い結果の恩恵を受けているようなこともあるが、この中で何本が大事か。これは大事だから切ってはだめという話になるが、それはこの懇談会の役割ではないと思う。むしろそれは根っこの問題、樹種の問題や樹形の問題、それから風当たりの問題。それは専門家が判断をすることだと思う。

景観が変わるという話が出たが、堤防を歩いていると気づくと思うが、圧倒的な緑を背景にしている。堤防の手前の木は木陰があり南に堤防の木が生えていて、きれいな木陰が出来るのはここだけだが、他の堤防は一切木陰が出来ない。そのとおりだが、私は危険なものは堤防を緩傾斜するかはともかく切る必要がある。次に将来どのようにこのような堤防を強化していくのかというときに問題になる部分があれば動かせるものは動かすし、更新するものは更新する。その判断はするべきかと思うが、景観がガラッと変わ

ることが必ず悪いことなのか。後ろにある緑がよりはっきり見えてくることになるかもしれない。これは私の個人的な意見で委員長の立場から言うと、なんとか丁寧にやっってくださいということを懇談会でお願いするしかないと思う。

色々な人に公園全体に関心を持ってもらいたい。公園の管理の仕方とか、樹木そのものの街路樹の分布の仕方とかに関心を持ってもらいたいが、極めてピンポイントにメディアで扱ってもらうからここだけ注目されてしまう。考え方としてこの懇談会ではせっかくこのような場があるので一気にやらずになるべく残そうという意志で判定をして本数よりも丁寧に扱いましょうということを緑に関していっていきたいと思う。

(委員)

- ・これだけの緩傾斜を取ると、今ある樹木を部分的にブロックや塀で囲むなどしても、かなり無理があると思う。そうなれば、やはり移植をすとか植樹をすということになる。そうになってしまうと、イメージ図にかかっているような形にならざるをえない。治水そのものは非常に大事でそれをどうでも良いという話にはならないが、もしそれが本当に危険だというのであれば、それだけの議論をしていただかないと。現行の中で色々工夫が取れるということなら、私は全面的にこれだけの緩傾斜にする必要は無いのではないかと思う。例えば階段が急なら階段の部分だけを緩傾斜にするという方法もあると思う。なので、そういう方策も考えるべきだと思う。
- ・北海道では防風防雪というと冬でも葉の落ちない針葉樹林を配置することが多いが、本州の事情を見ると広葉樹の一つの固まりがあると森の乾燥が防げ、風も樹木が無い場合に比べて緩和されるというデータもあるのでそういうことも考えないといけない。

(委員)

- ・この種の話をするとき必ず移植という話が出てくるが、簡単に移植と言うが、これは人間がお腹を切って10から15時間くらいの手術をするのと同じくらいの致命的な影響を受ける。  
一つの例だが、新神楽橋ができる時に上川神社の前の道路を整備した。それに伴って市民の要望が強かったので樹木を13本移植した。それにかかった経費が5400万円であり、そのうち今残っているのはわずか2本か3本で後は全部枯れてしまった。平成10年頃に行ったはずだと思うが、今は枯れた木を切って倒している。それくらい移植というのは非常に難しい。記念樹やいわれのある木であれば別だが、一般的な樹木に対して簡単に移植するというのは莫大なお金がかかる。その時に5400万円をかけてどこかに木を植えたらずごい緑ができたろうということを言っている。

(委員)

- ・常磐公園が都市公園100選に選ばれていて、旅人が訪れる公園であり旅の人に出会うことも多い。樹木の大きさが立派と褒められることも度々ある。一方で自由広場をどんな使い方しているのか等普段見慣れていて気が付かないことを旅人から教わることがある。旅人に樹木の褒められる公園を次の世代によい形で残せるかにあり、樹木については適宜更新することが全体の維持管理であり、枯れかかった樹木は速やかに取り除き植樹すべきと思う。堤防の樹木は街の保全から別問題と考える。

(事務局)

- ・資料2について捕捉説明するが、右下のイメージ図で堤防の木が3本しか無い絵があつて誤解を生んだのかもしれないが、築堤断面図のA~Cの範囲に樹木があるということは問題ではないので、先ほど移植は難しいという話が出たが、移植でなくてもここに新たに植樹をするということは可能であり、移植や植樹を検討している。

(委員長)

- ・今日の資料は専門家がつくった資料もあるし、素人のような絵もあるが、ある方向が個別にそれぞれ意見をいただいたと思います。最初にこれからの会議がどのように運営されていくか話したが、この後、計画の骨子に文言も含めて整理され、パブリックコメントという段階を迎える。パブリックコメントとは、やっているわりには意見が集まらないのが現実だが、今回は随分関心を持ってもらえているので色んなところでこの計画あるいは公園そのものへの思いを語れる場所もつくられるかと思う。一つは点検をきちんとした上で専門家の判断を入れてよりよい方向にしたいというのがベースである。今日の位置づけとしては冒頭に整備内容の確定というのが議題としてあるが、確定となるとちょっと不安が残る。なので、議題としてそれぞれの個別の案件に関して色々意見をいただいて整備をしてほしいというのが今回の結論かなど。流れや方向性は確認できたと思う。想いは語られて方向は間違っていないと思った。

(副委員長)

- ・堤防の緩斜面化に伴う伐採や植樹計画が重要な問題であるとの認識は委員、皆が受け止めている一方、防災の観点から堤防の工事の必要性への理解も計られてきたのではないかと思う。きめ細かな緑の計画とその管理について、懇談会の初めから意見があったが、管理計画に対して将来のビジョンを持つことが重要であると言われてるように受け止めている。樹木を残すことについて重点を置いて議論を進めてきているが、その中ではこれからまた100年経ってそれなりの緑の形をつくっていくといった計画の精神性についても多くの委員が言われているのではないかと思えた。そういった意味でこれからの緑のありかたについてビジョンをもってその配慮を御願いたい、という点ではまとまっているのではないかと思う。

- 以上 -